

# 2007年度幹事報告

---

## 庶務幹事この一年

百生 敦 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

年度変更と会費値上げといった学会にとって大きな動きがあったタイミングで庶務幹事の大役を仰せつかり、あまり振り返る余裕のないまま活動してきました。私自身は2003～2004年度に会計幹事を担当した経緯があり、その経験を何とか生かせるようにと務めてきましたが、なかなか思うように動けていないところもあります。原稿執筆を機会にこの一年をまとめてみたいと思います。

これまで本学会の年度は12月/1月で切り替えていましたが、2007年より9月/10月で分けるようになっております。すなわち、2007.10.1より2008年度がスタートしております。これは、学会運営をよりスムーズにすることを狙ったものですが、様々な年中行事もタイミングが変わることになります。この移行期の舵取りに間違いが無いよう引き続き務めるとともに、事務局と連携し年度変更の目的が発揮されるように学会運営の足場を固めてまいります。

2008年4月で日本放射光学会が創立20周年を迎えます。その記念事業の準備を本執行部で進めています。企画委員会を招集させていただき、2009年の年会において式典等を開催させていただくことになりました。多くの会員

のご協力とご参加をお願いし、会員にとって有意義な行事となるよう努力いたします。

日本放射光学会は男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー会員として加盟することを評議員会で決定しました。会員のご意見ご要望が学会内外で実現されるよう庶務幹事として努力します。

会費値上げは数年前に会計幹事を務めた者としてもずっとしり重みを感じる問題でした。何とか学会の財政事情をご理解いただき総会で承認されましたが、会員の目に見える還元があってこそ真に認められることだと思っております。今の学会運営が値上げに見合っているか常に留意しつつ活動してまいります。

本執行部の任期は2009年9月末日までとなっております。学会の基盤を再度固めて新たな10年のスタートを切るために、ある意味で必然的に長い任期が残っていると考えます。会員に還元できる学会であるべく、両宮会長を先頭に幹事一同引き続き努力してまいります。会員の皆様のご協力も必須です。本学会で活発に活動していただき、忌憚の無いご意見・ご要望を執行部までお寄せください。

---

## 行事幹事この一年

山本雅貴 (理化学研究所)

学会行事幹事の大役を引き受けることになり、2007年1月から実際に行事幹事を勤めさせて頂いてはやくも1年が過ぎようとしています。行事幹事という慣れない仕事ながら、20周年という大きな節目を迎える放射光学会で、より多くの会員の皆様に興味をもって頂ける行事の開催に心がけてきました。行事幹事として今年行った仕事は、例年通り若手ワークショップの開催と日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(以下、年会と略す)の準備です。

若手ワークショップは今年度より、若手研究者への放射光利用の啓発と潜在的な放射光ユーザーの拡大を目標に、特定の研究分野にフォーカスした開催を予定しています。その初回として、8月にSPring-8キャンパスにおい

て、第4回日本放射光学会若手ワークショップ「次世代放射光源を用いた生命科学未踏領域への挑戦」を開催しました。このワークショップでは、放射光利用研究の中から重要な学問分野の一つである「生命科学」分野に焦点をあて、近未来に展開されるサイエンスについて講演と議論を行いました。108名の参加者を迎え、初日夜にはバーベキューを行い夜遅くまで放射光科学の将来について議論しながら懇親を深めることが出来ました。このような企画を続けていきたいと考えておりますので、皆様からのご意見とご参加をお願いいたします。

年会は、総合的な放射光科学の情報発信の場として、広い研究分野の放射光ユーザー間および施設間での情報交換・交流を目的に開催いたします。今回、初めての開催とな

る立命館大学・びわこくさつキャンパスでの第21回年会の準備を太田俊明実行委員長・難波秀利プログラム委員長および組織委員・実行委員の皆様のご協力により進めています。今回の年会では、雨宮会長のアクションプランにある「アジア・オセアニアの放射光科学のリーダーシップ」に添った形で「アジア・オセアニックフォーラム(AOFSRR)」の特別企画を組み込み、さらには一般講演についても口頭発表件数を増やすことで、情報発信の機会を増やしています。この報告が会員の皆様の手元に届くこ

ろには、第21回年会も成功裡に開催できているものと確信しております。また、次回年会は放射光学会20周年記念式典と組み合わせ、東京大学・本郷キャンパスでの開催を予定しております。皆様のご参加をお願いいたします。

最後になりましたが、昨年1年、会長・他幹事・評議員・行事委員・事務局ならびに会員の皆様にはお世話になりましたことを感謝するとともに、今後ともご協力をよろしくをお願いいたします。

## 編集幹事この一年

櫻井吉晴 (高輝度光科学研究センター)

2007年1月に編集幹事(「放射光」編集長)の役割を引き継ぎ、以来、有能な21名の編集委員と事務局に助けられながら編集幹事の仕事を進めてまいりました。この1年間の仕事内容を項目別に整理しますと、(1)学会機関誌「放射光」の編集・発行(年6回)、(2)「ビームライン光学技術シリーズ」の単行本出版準備、(3)次期特別企画と連載基礎講座の立案・準備、となります。

「放射光」の編集にあたっては、(1)先端基礎研究、(2)第4世代光源、(3)産学連携(産業利用、産業界の視点)、(4)その他(新しい視点)、を記事選択のキーワードとし、さらに付加価値として、(1)国際的視点、(2)実用性、(3)ニュースバリュー、(4)啓発的、を加味した編集方針で進めて参りました。読者の皆様は、この編集方針と実際の掲載記事に関してどのように評価されたでしょうか?この一年、掲載記事の大半は「(1)先端基礎研究」に属していました。放射光利用研究が幅広い研究分野を網羅することを反映し、多彩な最先端研究を紹介してきましたが、専門分野の読者を対象とした記事が多かったのではと反省しています。今後は、一般読者を対象とした記事のさらなる充実を考えてい

く次第です。

「ビームライン光学技術シリーズ」の単行本出版の実施計画と準備を編集委員会で進めてまいりました。単行本は、シリーズ記事を吟味し、さらに演習問題とデータ集を追加して、手頃な価格で販売することになりました。実験現場での最新のハンドブック、講習会や大学実習・授業等での最良の入門書、参考書として、是非とも、ご購入のご検討を宜しくをお願いいたします。

次期特別企画として、「検出器シリーズ」を編集委員会で検討してきました。取り上げる検出器の種類や内容が決まり、2008年の早い時期に連載開始となります。各検出器の動作原理、特徴、取扱い方法をわかりやすく説明し、使用例や入手情報を紹介するなど、実用性を前面にだした企画になっています。また、これと並行して、電子と光子の相互作用に焦点を絞り、かつ最先端放射光利用に関連した連載基礎講座の検討を進めています。

最後になりますが、この1年間いろいろな面で助けて頂いた雨宮会長、幹事の皆様、学会事務局の皆様、編集委員の皆様へ深く感謝いたします。

---

---

## 渉外幹事この一年

繁政英治 (自然科学研究機構 分子科学研究所)

渉外幹事の仕事を仰せつかってから一年が経ってしまいました。反省すべきことばかりなので、あまり筆が進みませんが、この一年を振り返ってみたいと思います。

「渉外」という言葉は、大辞泉によりますと、「外部と連絡・交渉すること。」となっています。その名を冠する幹事の役割は、学会からの情報発信と、外部との連絡系の責任者という位置付けと解釈し、自分なりに取り組んだつもりです。両宮会長の所信表明を受けて、2つの大きな目標を設定しました。一つ目は、他学会との連携を強化し、若手の育成に繋がるような活動をすること、もう一つは、アジアオセアニアにおけるリーダーシップと放射光施設間のシナプスとしての役割を果たすための活動をするのでした。具体的な項目を掲げて積極的に取り組む所存でしたが、自分の力不足のため、残念ながらどれも中途半端に終わった印象が拭えません。

最も時間を費やすことになったのは、学会ホームページの更なる充実でした。澤前渉外幹事が事務局の協力の下で整備された路線を踏襲しつつ、1)ホームページの更新頻度を高めて、会員の皆様にタイムリーな情報を提供する、2)学会への入会のメリットが分かり易くなるように、会

員専用ページを見直す、の二点を中心に取り組みました。技術的な問題もあり、皆様にご満足頂ける状態になっていない部分もあるようですが、予算措置を伴う更新へ向けた過渡期という現況をご理解頂ければ幸甚です。ホームページをより良くして行くためには、皆様から忌憚のないご意見をお寄せ頂くのが最善と考えます。何かご要望等御座いましたら、事務局又は渉外幹事までお知らせ下さい。なお、ホームページの不具合等をチェックして頂くモニター係を選出することになり、木村真一(UVSOR)、宇佐見徳子(KEK-PF)、為則雄祐(JASRI)のお三方にお願いしたところ、ご快諾頂きました。不都合等はお近くのモニター係にお知らせ頂いても構いません。より良いホームページ作りに向けた活動にどうぞご協力下さい。

この一年間、会長、幹事、事務局を始めとする多くの方々に多大なるお力添えを頂きました。この場を借りて感謝の意を表したいと思います。初年度は、結局、英語版ホームページの整備に手を付けることが出来ませんでした。来年は、これを最優先の課題として取り組んで行く所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

---

---

## 会計幹事この一年

澤 博 (高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所)

前執行部から、何の因果か幹事としてひとり残され、両宮会長の下での新執行部の中で会計幹事を担当させて頂き1年間がたちました。この間、会費の値上げと会計年度の移行があり、暫定年度の9か月を経て本学会は2007年10月からは早々と2008年度に突入しました。会計年度を動かした理由については、すでに会誌上で報告がありますが、最もしっかりしないといけなのが予算運営です。本年度は、昨年度まで嵐のようになってきた特別委員会が一段落し、若手ワークショップも軌道に乗ってきたので、学会の活動として定常状態になりつつあるという印象です。放射光学会が主催団体の一員として名前を連ねている

AOFSRRのサマースクールも行われましたが、独立会計で動き始めており、毎年行われることになりそうです。さらに、今年では会誌の記事を集めて単行本化するという作業が編集幹事を中心に進められています。年会・合同シンポに加えて様々な企画が運営されている、大変アクティブィの高い学会に成熟しつつあるように感じます。我が国の世界に誇る放射光施設の発展を文字通り基盤で支える本学会は、さらなる戦略を立てて動かして行くことになるでしょう。残りの任期も学会運営が滞りなく進められるように、金庫番として微力ながらお手伝いする所存です。